

**「国有林野事業業務研究発表会」  
林野庁長官賞（最優秀賞）受賞課題の概要**

○国民の森林部門

受賞者： 中部森林管理局 南信森林管理署 井元 幸子  
信州大学 農学部 高田乃倫予  
藤田 ゆう

課題名： 「地域のニーズを引き出す取組み  
～『郷学官』共同企画を通じた森林林業の普及～」

概要： 伊那森林事務所管内の国有林は、大学演習林と隣接下流域に集落（手良地区）が位置しているが、これまで特に地域との密接な交流はなかった。

このことは地域に森林林業の重要性を普及していく上で課題であるにとらえ、郷学官（集落と大学生と国の三者）の交流を活発にする取組を行った。

森林官がコーディネーター役に立ち、手良地区が計画しているハイキングに森林ガイド（＝大学生と森林官）が同行するという企画を大学生・地区のそれぞれに持ちかけ、共同で取り組むきっかけにした。企画にあたっては、国民視点に立ち、地域のニーズを引き出すように心がけた。

企画の実施によって、地区から「是非来年も参加してほしい」と要望を受ける好評価を得た。また、この共同企画を通して地域から森林林業への関心を引くきっかけになり、実施後には、要望や問い合わせが事務所に寄せられるなど、「郷学官」の交流は今後も期待できる状況になった。

地域のニーズを引き出し、その土地ならではの条件を活かすことで、「郷学官」の交流が活発になることから、本取組の過程は森林林業を普及させるための一手法として有効であると考えられる。



「郷学官」共同企画のイメージ



実施状況を伝える公民館報

**「国有林野事業業務研究発表会」  
林野庁長官賞（優秀賞）受賞課題の概要**

○国民の森林部門

受賞者： 九州森林管理局 大分森林管理署 廣田 光春  
武原 龍行

課題名： 「自然の草木を利用してシカの食害から森林を守る保育方法の取り組みについて」

概 要： 当署管内の新植地においては、ニホンジカによる造林木への食害が数多く発生しており、シカネットなどによる保護対策には多額の経費と労力が必要となるため、個人林家の植林に対する意欲が低下している状況となっている。このようなことから、5年ほど前からシカネットなどに頼らない保育方法を検討していた。

一方、台風被害対策として試験的に実施していた3本巢植造林地においてシカの食害を免れ、下刈の回数も減らすことができた。これをシカネットなどに頼らない保育方法として活用できるのではないかと考え、シカの食性や行動を観察した結果、造林地内の自然草木が少なければ造林木へのシカの食害が多く発生し、自然草木が多くなればその新芽を好んで食べることから、造林木への食害は発生しないことが分かった。

このことから、スギ造林木をシカの食害から守る方法として以下のような方法が有効であると考えた。

- ①森林の伐採後は、2～3年そのままの状態において、自然草木が侵入してからスギを植える。その際、造林地の周囲2～3m幅をシカの侵入防止帯とするため、地拵・植付を行わない。
- ②地拵は造林地内に自然草木を極力残し、膝の高さで刈払い、植林は自然草木の間に植え付ける。（3本巢植えの方が効果は大きい）
- ③1年目の下刈は行わない。2年目の下刈は、膝下の高さで刈払い、シカの好む新芽を多く発生させる。3年目以降は、スギの被圧状況を見て判断し被圧されるようであれば行う。
- ④自然草木が進入しない林分では、シカネットなどの対策が必要である。



自然の草木を利用し食害を防止した箇所



シカ食害の箇所